

mürren

街と山のあいだ。



編集・発行人 = 若菜見子

編集者。1968年神戸市生まれ。学習院大学文学部国文学科卒業後、山と溪谷社入社。『wandel』編集長、『山と溪谷』副編集長を経て独立。著書に『東京近郊ミニハイク』『東京周辺ヒルトップ散歩』他。



B6判横長・中綴じ／48頁（カラー16頁、モノクロ32頁）／年2回（6月・12月）発売／525円（税込）



vol.1 _2007 June

特集◎ とって食べる | take & eat

手をのばせば食べられるものはたくさんあります。身近な自然と人とのダイレクトな関わりを「食べる」を通して見つめ直した創刊号。



vol.2 _2007 December

特集◎ 冬眠 | hibernation

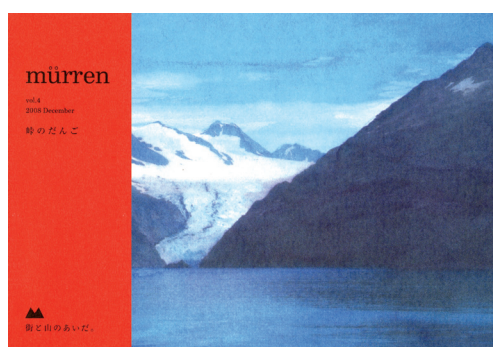
寒い冬。動物も人も草も木も、寒いという現実を通して自然を実感する季節。寒さとの距離感を「冬眠」をキーワードに murren 流にクローズアップしました。



vol.3 _2008 June

特集◎ 雨 | rain

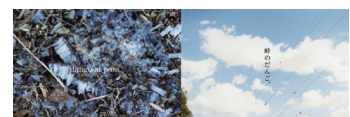
当たり前のように日常生活に入り込んでいる、大いなる自然「雨」。人は雨をさまざまな方角からとらえています。天から降ってくる自然そのものの姿を、街と山の両面から表現。



vol.4 _2008 December

特集◎ 峠のだんご | dango at pass

少し前の時代まで、人はどこへ行くのにも歩くのが当たり前でした。野を越え山越え谷を越え、歩き疲れたら峠の茶屋でほっとひといき、甘いもの。人と峠とだんごの一考察。



ミューレンは、スイスにある、明るく静かな山あいの町。登山電車の終点で、ここからアルプスが始まります。街と山のあいだ。この小冊子ミューレンも、街と山をつなぐ存在になれたらと思います。



vol.5 _2009 June

特集◎ 山の音 | sound of the mountain

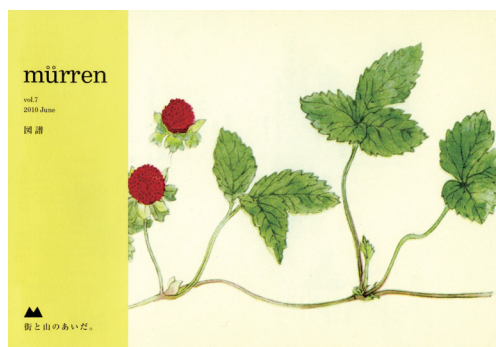
山へ行くとさまざまな音が耳に入ってきます。ふだんの生活では気づかない、生きているものの息づかい、自然の調べ、内なる声。そんな静かな「山の音」を、読み物主体で紹介。



vol.6 _2009 December

特集◎ 冬のみどり | ever green

みどりというと、春から夏のイメージですが、冬にもみどりは黙って息づいています。山でも街でも、あらゆるところで冬の自然を生きるみどりを、murren の視点でとらえます。



vol.7 _2010 June

特集◎ 図譜 | botanical art

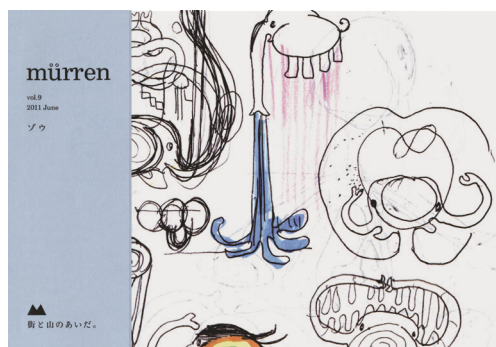
今は写真が主流の植物図鑑ですが、昔はすべて絵で描かれた図譜でした。古今東西、研究用に観賞用に識別用にと専門家たちに利用されてきた、精緻で美しい図譜を20点紹介します。



vol.8 _2010 December

特集◎ 湖水地方 | the lake district

イギリスの湖水地方の田舎町、コニストンで過ごした晩秋の1週間を、写真と文章でシンプルに綴った初の紀行エッセイ号。



vol.9 _2011 June

特集◎ ゾウ | elephant

日本の山にクマが棲息するように、アジアのジャングルやアフリカの草原では今日もゾウがひっそりと暮らしています。そのことの大切さに思いをいたす小特集。

